

## 麗澤大学、「JaLEC 設立記念シンポジウム」を開催 書籍刊行と連動し、日本語教育の新たな実践と知の創出を議論 —「日本語教育の実践と理論をつなぐ—共創拠点の役割とは—

麗澤大学（千葉県柏市／学長：徳永澄憲）は、2026年5月30日（土）、「麗澤大学日本語教育共創ラボ（JaLEC）設立記念シンポジウム」を開催いたします。本シンポジウムは、2026年4月に新たに設立されたJaLECの発足を記念し、日本語教育における理論と実践の関係をあらためて見つめ直し、大学・学校・地域など多様な現場における実践を通して、これからの日本語教育の在り方を考えることを目的としています。また当日は、JaLEC設立の契機となった議論をまとめた書籍『日本語教育はどう変わる？「日本語の明日を考える」シンポジウム録』の刊行を踏まえ、その背景にある問題意識と、そこから広がる実践の可能性についても共有いたします。

### 【当日の内容】

本シンポジウムでは、日本語教育に関する大学・学校・地域での具体的な実践を共有し、現場での経験がどのように学びへとつながるのかを多角的に考えます。

#### ■基調講演

- ・石黒広昭（立教大学 特別専任教授）

「現場で学ぶためにできること—理論と実践を編み直す」

本講演では、現場の実践を通して学ぶ力について考えます。

#### ■実践報告

- ・井上里鶴（麗澤大学国際学部 准教授）  
やさしい日本語を活用した地域連携（富士宮市酒蔵プロジェクト）
- ・金孝卿（麗澤大学国際学部 教授／JaLEC ラボ長）  
外国につながる生徒支援における大学生の変容  
—県立定時制高校での実践から

#### ■現場との対話

実践報告の関係者（卒業生・地域・学校関係者）を交え、多様な立場から実践を振り返り、協働のあり方について考えます。

### 【書籍について】

- 書名：『日本語教育はどう変わる？「日本語の明日を考える」シンポジウム録』

- 内容：日本語教育の理論と実践をめぐる議論をまとめたシンポジウム記録

本書で提示された問題意識を起点に、今回のシンポジウムでは、実際の教育現場における実践と結びつけながら議論を深めます。 ([https://www.9640.jp/book\\_view/?1033](https://www.9640.jp/book_view/?1033))

### 【シンポジウム概要】

- 名称：JaLEC 設立記念シンポジウム
- テーマ：日本語教育の実践と理論をつなぐ—共創拠点の役割とは—
- 日時：2026年5月30日（土）13:00～17:30（開場 12:00）
- 会場：麗澤大学 校舎「さつき」1階 大講義室
- 対象：学生、教員、行政関係者、企業・団体関係者、研究者、一般市民
- 参加費：無料（要申込）

### 【日本語教育共創ラボ（JaLEC）について】

2026年4月1日設立。日本語教育センター・国際学部・大学院を横断し、大学と地域社会をつなぐ共創プラットフォーム。日本語教育を「多文化共生社会を支える営み」として捉え直し、実践と研究を結びながら新たな知を創出することを目指しています。

#### 【麗澤大学について】

麗澤大学は昭和10年、創立者の廣池千九郎（法学博士）が「道徳科学専攻塾」を現在のキャンパス（千葉県柏市光ヶ丘）に開塾したことから始まります。「知徳一体」という教育理念のもと、心豊かな人間性を養い、国際社会に貢献できるグローバルリーダーの育成を目指し、教育改革を進めています。

【本件に関するお問合せ先】麗澤大学 大学入試・広報課 担当：井上

〒277-8686 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1

Email: koho@reitaku-u.ac.jp TEL: 04-7173-3030 FAX: 04-7173-3585 大学公式サイト: <https://www.reitaku-u.ac.jp/>

# JaLEC

麗澤大学 日本語教育共創ラボ  
 Japanese Language Education  
 Co-creation Lab  
 Reitaku University

